

株式の状況 (平成22年3月31日現在)

株式数及び株主数

発行可能株式総数	78,000株
発行済株式総数	19,500株
株主数	692名

大株主

	持株数	持株比率
株式会社アルゴグラフィックス	9,900株	50.8%
セイコーインスツル株式会社	4,080株	20.9%
ジーダット従業員持株会	734株	3.8%
岩崎 泰次	277株	1.4%
石橋 眞一	150株	0.8%
株式会社エスケーエレクトロニクス	90株	0.5%
株式会社図研	90株	0.5%
大日本印刷株式会社	90株	0.5%
凸版印刷株式会社	90株	0.5%
田口 康弘	88株	0.5%

所有者別状況

所有者区分	持株数	持株比率
金融機関	61株	0.3%
証券会社	53株	0.3%
その他国内法人	14,347株	73.6%
外国法人等	61株	0.3%
個人・その他	4,678株	24.0%
自己名義株式	300株	1.5%
計	19,500株	100%

株主メモ

上場市場	JASDAQ
事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
配当基準日	3月31日
株式の売買単位	1株

株主名簿管理人 東京都中央区八重洲一丁目2番1号
みずほ信託銀行株式会社

	証券会社に口座をお持ちの場合	特別口座の場合
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉 2-8-4 0120-288-324 (フリーダイヤル)
電話お問い合わせ先		
お取扱店	お取引の証券会社になります。	みずほ信託銀行株式会社 本店および全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問い合わせ先・お取扱店をご利用ください。	単元未満の買取・買増以外の株式売買はできません。 電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡ください。

電子公告とし、次の当社ホームページに掲載します。
(<http://www.jedat.co.jp/>)
ただし、事故その他やむを得ない事由により、電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

公告掲載方法



本社 東京都中央区日本橋人形町2-26-5
Tel 03-5847-0312 (代) URL <http://www.jedat.co.jp>

当冊子に関するお問合せ先
株式会社ジーダット 経営企画部 E-mail: corporate.planning1@jedat.co.jp

※表紙の写真は、Jedat本社がある日本橋人形町の新しいシンボル、「人形町通りからくり櫓(やぐら)」です。2009年11月に完成し、新しい時を刻み始めました。人形町は江戸の昔から栄えた商業都市で、今でも下町の情緒が残る、元気で活気あふれる魅力的な街です。



環境に配慮した「植物油インキ」を使用しています。



第8期 株主通信

自平成21年4月1日 至平成22年3月31日



株式会社ジーダット

証券コード：3841



JEDAT は
Japan EDA Technologies の略です。

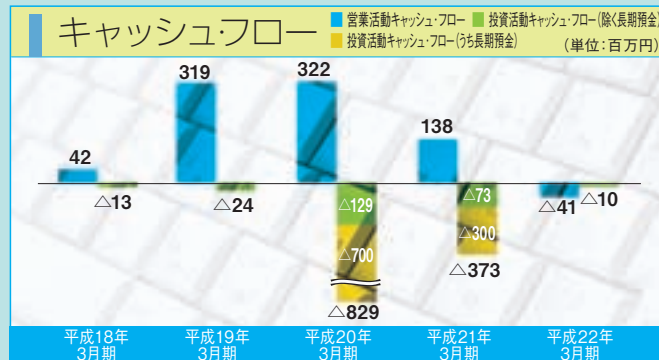
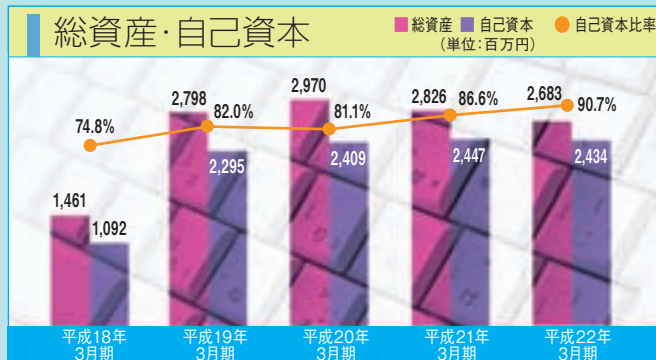
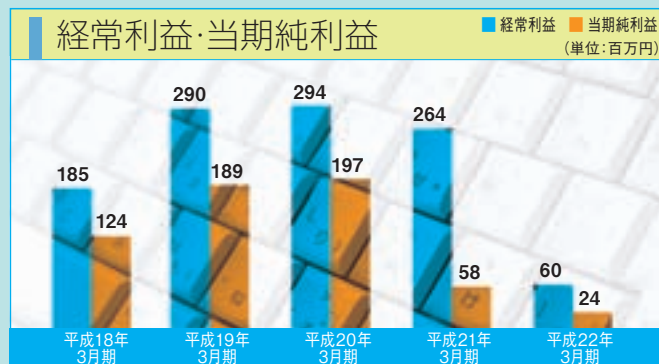
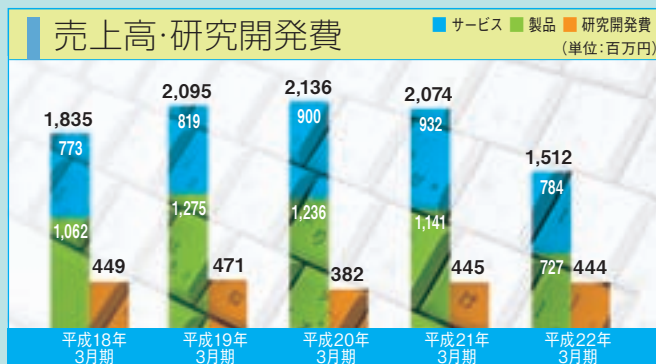
私たちは、日本のEDAのリーダーとして、
電子産業の発展に貢献したいと考えています。

EDA とは
Electronic Design Automation の略です。

電子機器や電子部品の設計作業を支援、検証するソフトウェア(電子系CAD)で、
設計作業には不可欠なツールであり、設計期間の短縮や設計品質の向上を実現します。

Financial Highlights

財務ハイライト



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。また平素より当社企業グループに格別のご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

当第8期は大変厳しい予想の元にスタート致しましたが、連結売上高は前期比27%減、期初計画比7%減、また連結経常利益は前期比77%減、期初計画比29%減と、期初計画をも下回る結果となりました。特に上半期は顧客業界の一律的な設備投資抑制の影響を大きく受け、本社移転の出費が重なったこともあり、上半期純利益は若干ではありますがマイナスとなりました。

国内の当社顧客業界は、他の製造業と同様、リーマン危機後の欧米など従来市場の大きな落込みの波を受けた後、新興市場の拡大により生産量が伸び、少なからず回復してきているように見えます。しかしながら、新興市場の拡大は新興市場故の低価格競争という大きなうねりを生み出し、このうねりは今後収まることのないサバイバル的問題として、継続的なリストラや事業撤退、企業間の事業統合など構造的な変化を顧客業界に強いております。

こうした一過性ではない市場構造の変化を乗り切るために、当社は当期の厳しい業績にもかかわらず、前期並みの研究開発投資を行い、その結果、計画通りの新製品リリースや発表を行いました。特に、当社の強みであるレイアウト

設計分野を補強し、製品群全体の価値を高めるものとして、回路設計分野向けの戦略商品、C³ (Circuit-Cube) は今後の当社成長の核の一つとなる製品であり、次頁以降で開発担当者が熱意を込めてご紹介しております。

まだまだ厳しい国内市場に対して、拡大基調にある中国、台湾、韓国につきましては、代理店支援を強化し、特に中国では北京及び上海に自社のサポート体制を構築いたしました。競争の激化に追いついておらず、販売についても自社体制の構築を急いでおります。

第9期は連結売上高が当第8期比6%増の16億円を予想しております。固定費をさらに圧縮して、当期では△64百万円だった営業利益は1億14百万円増の50百万円を見込んでおります。固定費の中でも、研究開発費は売上高比24%の高比率を維持するものの、絶対額としては13%減とする一方で、海外販売経費を増加させます。また経常利益は当期比1百万円増の61百万円を見込んでおります。欧州金融危機の連鎖懸念など先行き厳しい見方がありますが、変化を新しいニーズの源と捉え、チャレンジして参ります。株主の皆様には、より一層のご理解とご支援を賜りますよう、どうかよろしくお願い申し上げます。



代表取締役社長
石橋 眞一

当社の事業戦略

キーパーソンが語る当社戦略製品のコンセプト ～統合回路設計ツール:C³(Circuit-Cube)～

2009年10月、ジーダットは統合回路設計ツールC³の発売を開始いたしました。回路設計工程は当社企業グループが強みを持つレイアウト設計工程の上流に位置します。この分野は、今まで比較的問題が顕在化していませんでしたが、顧客企業間の競争激化の中、目標仕様の高レベル化、高機能化（回路の大規模化）、開発期間の短縮、低コスト化がより強く求められるようになるにつれ、徹底したシミュレーション検証とシミュレーション及び結果検証の効率化、レイアウト設計との協調等が重要な課題となってきました。

当社は、設計のベテラン達により徹底的に鍛え上げられた統合回路設計ツール：C³を市場に投入することにより、現状売上比率の小さい回路設計工程分野での大幅な売上拡大を目指します。



Key Person

営業技術本部 EDA技術二部 チーフエンジニア
古川 且洋

大手半導体メーカーで長年に渡りアナログLSI設計に従事していました。当社入社後、C³の企画段階から開発プロジェクトに参加、その豊富な経験と知識を活かして製品のコンセプト及び仕様の作り込みに携わっています。

回路設計は電子機器の競争力を左右する

私が携わっておりましたアナログLSIの設計工程は、大きく分けると上流系の回路設計と下流系のレイアウト設計とで構成されます。当社の設計ツールが現在強みを発揮しているレイアウト設計では、LSIの品質、納期、製造可能性、歩留（コスト）等を決定付けています。それに対して上流系の回路設計では、LSI自身だけでなくそれが搭載される電子機器の機能、性能、消費電力、コスト、及びそれらを統合した競争力を決定付けると言っても過言ではありません。例えば、テレビ画面に映し出される映像の、まるで実物を見ているような鮮明さや、オーディオでは、演奏者が紡ぎ出す弦の音の色さえも再現できるほどの高音質等、それぞれの電子機器が持つ性能や特性がLSIの回路設計の良し悪しに左右されます。こういった性能や特性は、明示された目標仕様に加えて、設計者の「こだわり」や「思い」をLSIに注ぎ込むことにより実現します。

電子機器の競争が激化するに伴い、益々競争力の向上を求められるLSIの設計者にとって、目標仕様を達成した上で、いかに自身自身の「こだわり」や「思い」を実現、提供するかが重要なポイントになっています。

巧みの技を共有

しかしながら実際は、特に経験の浅い設計者の場合は、目標仕様達成のレベルでも予め回路のどの部分をどのように検証すれば良いかのノウハウがないため、無駄な検証を行い、しかも肝心の検証が抜けてしまう事態が多く発生していました。それでは「こだわり」や「思い」を注ぎ込む余裕はなく、納期内になんとか目標仕様到達するのが精一杯でした。

ジーダットのC³では、熟練設計者による回路の検証手順や結果の

判定方法等をシステムに登録することで、一連の作業を自動的に行うことができ、かつ再利用可能な形でデータベース化することができるようになりました。このことにより、今までは個人のスキルに留まっていた熟練設計者の知識の蓄積、伝承、共有が可能になりました。経験の浅い設計者でも匠の技を利用できるのです。正しくかつ迅速に検証して判断ができれば、質の高い設計が可能になり、設計者は目標仕様を達成し、さらに「こだわり」や「思い」を実現するための設計ができるようになるのです。

設計効率と設計品質の両立

従来、回路設計とレイアウト設計間の情報は上流から下流への一方通行で、また伝えられる情報も電子的ではなく、書類や口頭のような手段で伝達されることが多々ありました。そこでC³では、レイアウト設計で起きる様々な問題点を電子化して、予め上流系の回路設計の段階でその情報に基づいた検証ができるようにしました。これを回路とレイアウトの「協調設計」と呼んでいます。設計者は回路設計とレイアウト設計の間にある垣根を飛び越えて、電子的情報の媒介によって自由に行き来できるようになったのです。この機能によって人為的なミスが大幅に減少するのはもちろんですが、ジーダットの自動レイアウト設計ツールの強みもより一層活かされることになり、設計の品質は自ずから非常に高くなります。質の高い設計が行えるということは、製造段階での失敗も激減しますので、全体の費用も時間も大幅に削減することができるのです。

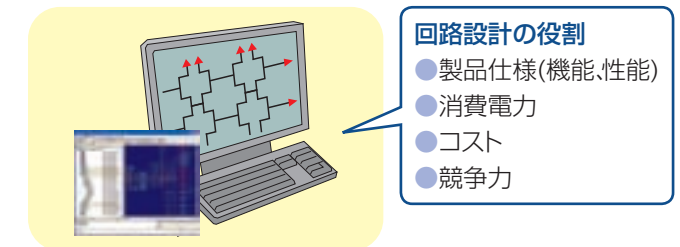
設計とは“Desire in the object”

私は回路設計者として、設計ノウハウを自動的に蓄積、伝承、共有することができる設計ツールを求めておりました。私の造語ですが、設計=Design（デザイン）とは、Desire in the object、つまり、設計者の「こだわり」や「思い」を物として表現することだと思っております。C³は、顧客企業が設計者不足の中で競争力を

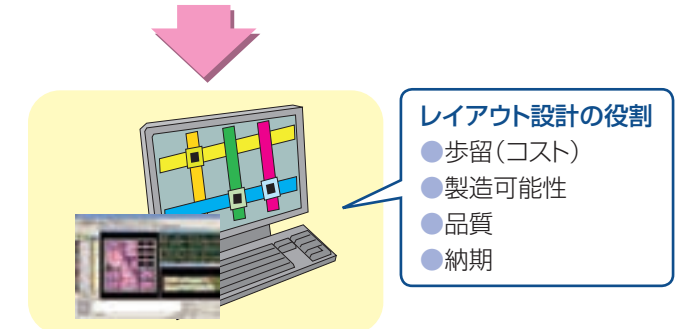
求められる時代にこそ、与えられた目標仕様を単に達成するだけではなく、設計者が本当に創りたい物を実際に創り出せる設計環境を実現できるツールであり、私を含めた長年の経験を持つ設計者がこれまで行っていた設計手法に一石を投じたつもりであります。

C³は、デジタル設計との協調やチーム設計の実現等、まだまだ可能性を秘めたツールです。今後、ツールの守備範囲を益々広げていくながら、ジーダットが得意としてきたレイアウト設計ツールとC³を連携させることで、今までに無い、回路設計とレイアウト設計の、高品質の協調設計環境を、広くお客様にご提供したいと考えております。

アナログ LSI の設計工程



回路設計
電子部品の回路図をシンボル(記号)を用いて記述します。



レイアウト設計
回路図に基づいて実際のトランジスタや結線をレイアウトします。

業績の概要

顧客企業の設計設備投資抑制が続き減収減益、経常利益率は4%確保

当社企業グループの主要な顧客である国内半導体関連ならびに液晶関連の製造業は、中国を始めとする各国政府の景気拡大策やエコ推進策により、生産量及び販売額とも回復基調となっておりますが、単価下落が激しく、各顧客企業とも利益面で厳しい状況が続いております。各顧客企業の設備投資は、生産量増大と原価低減に対応した生産設備への投資が先行しておりますが、設計設備への投資は抑制されたままであり、引き続き極めて慎重な姿勢を崩しておりません。当社企業グループが扱うEDA製品もこの影響を大きく受けており、その中で前年度とほぼ同額の研究開発投資を行うことで、計画通り新規市場開拓のための新製品リリースを順次行ってまいりました。しかしながら、既存顧客の増設、

新規開拓とも厳しい状況で推移しており、売上減をリカバーするまでには至っておりません。また、好調な韓国市場や中国市場に対して、優位性の高い製品を中核とした設計フローの提案を積極的に押し進めておりますが、短期的な成果を挙げるまでには至っておりません。

当連結会計年度における連結売上高は15億12百万円（前期比27.1%減）、連結営業損失は64百万円（前期は連結営業利益2億27百万円）となりました。営業外収益として助成金収入他を計上した結果、連結経常利益は60百万円（同77.1%減）となりました。また事務所移転費用ならびに固定資産除却損を特別損失として計上したため、連結当期純利益は24百万円（同57.8%減）となりました。

製品売上高36.2%減、サービス売上高15.9%減と共に減少

当連結会計年度における当社企業グループの売上高は、製品及び商品売上高は7億27百万円（前期比36.2%減）、サービス売上高は7億84百万円（同15.9%減）となりました。顧客企業の一時的な設計設備投資の抑制に留まらず、事業の再編にまで踏み込んだ設計者の減員等が行われたことが影響して、製品及び商品売上高に留まらず、サービス売上高も減収となりました。

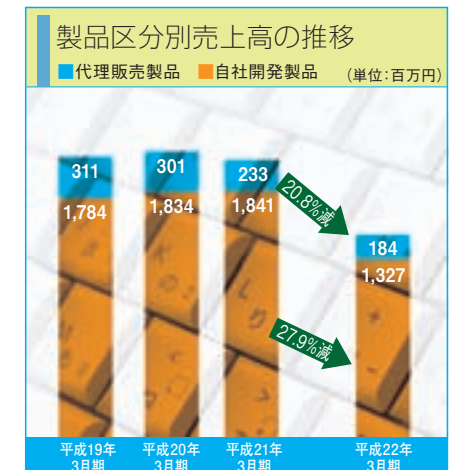
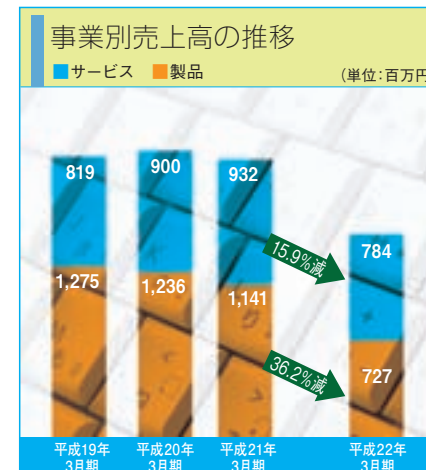
市場別では、半導体市場においてこの影響が特に大きく9億10百万円（同32.4%減）となりました。一方で、液晶等のFPD市場につきましては、中国の液晶パネル需要等により一部顧客では設計設備投資が継続されたことから影響が比較的少なく6億1百万円（同17.4%減）となりました。

自社開発製品、代理販売製品の区分では、共に投資抑制の影響から、自社開発製品は13億27百万円（同27.9%減）、代理販売製品は1億84百万円（同20.8%減）となりました。

以上の結果、税金等調整前当期純利益は46百万円となりましたが、法人税等の支払以外に賞与引当金ならびに前受金の減少があった関係で、営業活動によるキャッシュ・フローは△41百万円となりました。

(単位:百万円)

	平成19年3月期 業績		平成20年3月期 業績		平成21年3月期 業績		平成22年3月期 業績		
	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	実績	売上高比	対前年同期比
売上高	2,095	100.0%	2,136	100.0%	2,074	100.0%	1,512	100.0%	△27.1%
売上総利益	1,473	70.3%	1,478	69.2%	1,474	71.1%	1,025	67.8%	△30.5%
販売費及び一般管理費	1,266	60.4%	1,256	58.8%	1,247	60.1%	1,089	72.1%	△12.6%
営業利益又は営業損失(△)	207	9.9%	221	10.4%	227	11.0%	△64	△4.3%	—%
経常利益	290	13.9%	294	13.8%	264	12.8%	60	4.0%	△77.1%
当期純利益	189	9.0%	197	9.2%	58	2.8%	24	1.6%	△57.8%



連結財務諸表

(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

連結貸借対照表

(単位:千円)

科目	当連結会計年度 (平成22年3月31日)	前連結会計年度 (平成21年3月31日)	科目	当連結会計年度 (平成22年3月31日)	前連結会計年度 (平成21年3月31日)
資産の部			負債の部		
流動資産	1 2,070,247	1,474,046	流動負債	248,884	379,282
現金及び預金	4 1,681,161	1,070,778	買掛金	48,751	63,239
受取手形及び売掛金	291,776	298,703	未払法人税等	6,219	28,900
たな卸資産	7,832	13,180	賞与引当金	55,516	80,226
繰延税金資産	33,481	39,963	前受金	96,345	—
その他	59,395	54,821	その他	42,051	206,915
貸倒引当金	△3,400	△3,400	負債合計	248,884	379,282
固定資産	1 613,446	1,352,891	純資産の部		
有形固定資産	35,628	21,063	株主資本	2,435,914	2,449,435
無形固定資産	30,723	40,466	資本金	760,007	760,007
ソフトウェア	30,723	40,466	資本剰余金	890,558	890,558
投資その他の資産	547,094	1,291,361	利益剰余金	818,025	831,547
長期貸付金	1,098	3,518	自己株式	△32,676	△32,676
繰延税金資産	196,024	207,281	評価・換算差額等	△1,105	△1,780
長期預金	300,000	1,000,000	為替換算調整勘定	△1,105	△1,780
その他	49,970	80,561	純資産合計	2,434,809	2,447,655
資産合計	2,683,693	2,826,938	負債純資産合計	2,683,693	2,826,938

1 流動資産、固定資産

流動資産の増加、固定資産の減少は、主に「長期預金」から「現金及び預金」への繰り入れ7億円によるものであります。

3 特別損失

固定資産除却損3百万円、事務所移転費用11百万円を計上いたしました。なお、前連結会計年度は投資有価証券評価損1億21百万円を計上しています。

2 営業外収益

研究開発助成金収入1億6百万円を計上いたしました。

4 現金及び現金同等物の期末残高

「現金及び現金同等物の期末残高」と連結貸借対照表「現金及び預金」との差額は、預入期間が3ヶ月を超える定期預金7億円によるものであります。

連結損益計算書

(単位:千円)

科目	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
売上高	1,512,268	2,074,476
売上原価	486,708	599,740
売上総利益	1,025,560	1,474,736
販売費及び一般管理費	1,089,925	1,247,170
営業利益又は営業損失(△)	△64,364	227,566
営業外収益	2 125,624	37,116
営業外費用	744	35
経常利益	60,515	264,647
特別利益	—	1,400
特別損失	3 14,170	121,940
税金等調整前当期純利益	46,344	144,107
法人税、住民税及び事業税	3,727	94,371
法人税等調整額	17,738	△9,262
当期純利益	24,878	58,999

連結株主資本等変動計算書

(単位:千円)

	株主資本					評価・換算差額等		純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	為替換算調整勘定	評価・換算差額等合計	
平成21年3月31日残高	760,007	890,558	831,547	△32,676	2,449,435	△1,780	△1,780	2,447,655
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			△38,400		△38,400			△38,400
当期純利益			24,878		24,878			24,878
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						674	674	674
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△13,521	—	△13,521	674	674	△12,846
平成22年3月31日残高	760,007	890,558	818,025	△32,676	2,435,914	△1,105	△1,105	2,434,809

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:千円)

科目	当連結会計年度 (自平成21年4月1日 至平成22年3月31日)	前連結会計年度 (自平成20年4月1日 至平成21年3月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	△41,477	138,933
投資活動によるキャッシュ・フロー	△10,414	△373,609
財務活動によるキャッシュ・フロー	△38,400	△38,400
現金及び現金同等物に係る換算差額	674	△4,512
現金及び現金同等物の増減額(減少△)	△89,617	△277,589
現金及び現金同等物の期首残高	1,070,778	1,348,367
現金及び現金同等物の期末残高	4 981,161	1,070,778

1株当たり情報

1株当たり純資産額	126,812円96銭
1株当たり当期純利益	1,295円74銭

EDS Fair 2010 に出展

当社は、2010年1月28日(木)、29日(金)の2日間、パシフィコ横浜で行われた、Electronic Design and Solution Fair 2010(EDS Fair 2010)に出展いたしました。

今回の展示会では、10月に発売を開始した、統合新回路設計ツール:C³(Circuit-Cube)をメインとしたジエダットのトータル設計フローなどのご紹介を行い、大変ご好評をいただきました。本社の所在地である日本橋人形町の縁日をイメージしたブースへは、連日多くのお客様にご来場いただき、お祭りさながらの賑わいでした。



ジエダットブースの様子

シリーズ ジエダットの設計ツール

C³ (Circuit-Cube) ~統合回路設計ツール~



回路設計に必須な機能を一体化した回路設計プラットフォーム

回路設計に必須な回路エントリ、シミュレーション実行制御、波形解析ビューア機能を一体化しており、回路設計から検証作業までをシームレスに実行できる新世代の統合回路設計ツールです。

繰り返し作業が多い回路解析、検証作業の効率化

設定した目標仕様とシミュレーション結果の比較やチューニングなどの繰り返し作業を自動化することにより、人手が介在する煩雑な繰り返し作業をなくし、大幅な設計検証効率の向上と品質のレベルアップを図ることができます。またこれら一連の解析結果はデータベース化して、設計ノウハウの共有や設計資産の再利用といった組織レベルの設計効率化にも寄与します。

レイアウトへの電氣的制約反映により、設計手戻りを防止し設計品質を向上

電氣的な回路制約からレイアウト制約に変換することにより回路-レイアウトの協調設計を実現しますので、設計手戻りの削減とトータルな設計品質の向上を図ることができます。

会社概要 / 役員

会社概要 (平成22年3月31日現在)

商号	株式会社ジエダット (Jedat Inc.)
所在地	〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町2-26-5
代表者	代表取締役社長 石橋 眞一
営業開始	平成16年2月2日
資本金	760,007,110円
事業内容	電子回路・半導体集積回路・液晶モジュール等設計支援のためのソフトウェア開発・販売及びコンサルティング
関連会社	株式会社ジエダット・イノベーション (Jedat Innovation Inc.) 福岡県北九州市若松区ひびきの2-5 情報技術高度化センター 績達特軟件 (北京) 有限公司 (Jedat China Software Inc.) 北京市西城区新街口外大街28号B座409-412室 URL http://www.jedat-soft.com.cn 株式会社A-ソリューション (A-Solution Inc.) 東京都中央区日本橋人形町2-26-5
所属団体	社団法人 電子情報技術産業協会 (JEITA) 社団法人 日本半導体ベンチャー協会 (JASVA) 一般社団法人 日本エレクトロニクスショー協会 (JESA) 日本EDAベンチャー連絡会 (JEVeC)

役員 (平成22年6月16日現在)

代表取締役社長	石橋 眞一
取締役	増山 雅美 (経営企画部長)
取締役	香月 弘幸 (システム部長)
取締役	伊藤 俊彦 ((株)アルゴグラフィックス執行役員 財務・広報・法務統括部長)
取締役	伊藤 吉昭 (セイコーインスツル(株)執行役員 水晶事業部長兼栃木事業所長)
常勤監査役	飯村 雄次
監査役	吉田 隆男
監査役	中村 隆夫 ((株)アルゴグラフィックス 監査役)